

国

語

【注 意】

- 【一】開始の合図があるまで開けないこと。
- 【二】問題は1ページから18ページまでに印刷してあります。開けたらすぐにページを確かめること。
- 【三】答えはすべて解答用紙に記入すること。
- 【四】字数制限のある問題は、句読点も一字分として数えます。
- 【五】試験終了後は、まず解答用紙を回収し、そのあと問題用紙も回収しますが、問題用紙には名前を書く必要はありません。

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(設問の都合により本文の一部を改変しています)

『世界の中心で、愛をさけぶ』(片山恭一、小学館、二〇〇一年)が三〇〇万部を超える大ベストセラーになった理由のひとつは帯に書かれた女優・柴咲コウさんの推薦文にある、と言う人がいる。その推薦文はこうだ。

「泣きながら一気に読みました」

「それを信じて買ったのに泣けなかった」と学生たちが文句を言う場所に居合わせたことがある。「それより内容は？面白くなかったの？」ときくと、

「A」と答えた。「でも泣けなかったんですよ」。彼らにとっては、スト

ーリーそのものよりも「泣けるか、どうか」のほうが重要なのだ。
「涙を見せるのは男の恥」などと時代遅れのことを言う人はさすがに少なくなりましたが、近年、この「涙」の意味や価値が上がり、自分や他人が流す「涙」に敏感に反応する人が増えているような気がする。若い人たちも、さかんに「泣けるもの」を求めている。また、男性が素直に涙を見せる韓国ドラマもブームになっている。

最近もある女性雑誌が「泣くって決めて観る映画」と大特集を組んでいた。有名人が勧める「私も泣いた！この一本」やシネマガイド「涙、涙の二〇〇本」など、とにかく「これでもか」というほど泣くための作品が紹介されていた。ここにあるのは、「泣くのはいいこと、すばらしいこと」と涙を全肯定する考え方だ。

また、いくら B 小説であっても、「泣ける」と評判になればベストセラーになる傾向がある、と編集者から聞いたこともある。感動手記、感動下キメメンタリーなども相変わらず人気がある。ほとんどストーリーらしいストーリーもない、困難や恋愛や難病を表面的に描いただけのドラマやマンガに「泣けたよねー」、「泣けた……超感動！」などと夢中になっている学生たちを見ると、つい「涙さえ流せばあとはどうでもいいのか」と言いたくなる。学生に「どうして泣きたいのか」ときくと、「感動したいから」という答えのあとで「それに、すっきりしたいし」という

ことばが続くことがある。先の雑誌の「泣ける映画特集」にも、「恋したい、元気でいたい私の特効薬」というサブタイトルがついている。泣きながらしんみりと自分の内面を見つめたい、というのではなく、あくまで泣いたあとにすっきりして元気になるために涙を流したいのだ。泣くことによって、自分の涙や身の回りの問題までリセットされたような快感があるのだろう。「感動して泣くと、心が洗われる気がするから」と答えた学生もいたが、「涙」には「他人の恋愛に泣けるピエーナ私が好き」と自己愛を満たしてくれる効果もあるのかもしれない。いずれにしても、彼らの「涙」は人間的な成長につながるような深いものではなく、あくまで自分がすっきりするための「排泄物」であり、「私っていい人」と自己満足にひたるための手立てにしかすぎないようだ。

【 中 略 】

「子どもの涙には誰も勝てない」、「女性の涙には弱い」といった言い方があるが、いまや子どもや女性に限ったことではなく、「涙」はあらゆる主張、あらゆる場面での「最後の切り札」になっているかのようだ。

ここで問題なのは、この「涙」が出てくると、ほかのあらゆる意見や議論が無効になってしまうことだ。たとえば、「現時点での北朝鮮への経済制裁には賛成しない」と発言すると、「では、あなたは拉致家族の涙に何も感じないのですね」と激しく責められる。人間であれば、家族を突然、奪われて悲しむ人たちの涙に同情しないわけはない。しかし、その感情と「外交上、北朝鮮にどう対応していくか」ということは別の次元の問題のはずだ。それにもかかわらず、個人的感情と、歴史、国家、外交といった大きな問題がまったく同列に語られ、しかもその中でもっとも優先されるべきは「本当にかわいそう」といった個人的感情なのだ、といった価値観が広まりつつあるような気がする。

自分ではない誰かひとりが流す「涙」とそれへの同情がすべてを決める。「涙の意味を受け取れ」という主張と、「戦後の日本は「私」を尊重するあまり、「公」の意識が薄れてしまった。取り戻すべきは公共心だ」という、昨今よく叫ばれる主張とは一見、相反する。しかし、ともすれば同じ人物が「あの母親の涙を見よ」と言いつつ、「公を大切にせよ」とも言っ

いるのだ。

ただ、「涙」さえ見せればどんな人でも「かわいそう」と同情の対象となり、世論が動かされるのかといえは、それも違うようだ。イラクで人質となった青年の家族が見せた「涙」も、飢えや別離に苦しむ北朝鮮の一般の人たちの「涙」も、日本人々の感情に訴えかけることはそれほどなかった。ほとんどの「涙」はそれだけで共感、同情の対象となるのに、時としてこういった例外もある。「どの涙はよくて、どの涙はよくないか」というポイントを読み間違えると、今度はその人が批判の対象になってしまう。だから私たちは常にまわりの人の顔色をうかがいながら、実は「今なら安心して泣ける」というときにだけ涙し、「この人には同情して大丈夫だ」という対象にだけ「かわいそう」と言っているのではないか。

「泣ける映画」に若者が群がり、「涙」によって憂さや悩みをリセットする。それと同じように、私たちは「涙」によって、歴史などのより大きな問題までもリセットさせようとしてはいないだろうか。しかも、自分たちの心を癒す「涙」だけに目をとめ、自分たちの非や責任を思い起こさせるような「涙」は都合よく見ないようにしているのではないだろうか。もしそうだとしたら、それくらいあざとい「涙」の利用の仕方はないだろう。それならまだ、純愛物語に涙して「自分もあんなにきれいな愛を生きてみたい」と素直に思い、それ以上、その「涙」を自分の主張を通すために使ったりすることは考えない若者のほうが、よほど罪はないと言える。「飾りじゃないのよ、涙は」という歌の歌詞があったが、「切り札じゃないのよ、涙は」とでも言いたいところだ。

(二〇〇五年 香山 リカ『いまどきの「常識」』岩波新書)

〔注〕*ドキュメンタリー：実際の事件などの記録を中心として、虚構を加えずに構成された番組や文学作品など。

*排泄：不要な物質を体外に出すこと。排出。

*拉致家族：「拉致」は無理に連れて行くこと。ここでは北朝鮮に拉致されたと推定される人の残された家族のこと。

*世論：ある社会の問題について世間の人々の持っている意見。

*憂さ：気持ちが晴れないこと。

*あざとい：やり方があくどいこと。あさはかなこと。

- 問一

A	B
---	---

に入る語句の組み合わせとして最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。
- ア A まあ、それなりに B 現実離れした設定の
 - イ A すごくよかったです B 感動すると評判の
 - ウ A 全然、だめでした B 文章の質が低い
 - エ A 期待したほどでは… B 作者が趣向をこらした

問二 傍線部「若い人たちも、さかんに『泣けるもの』を求めている」とありますが、その理由を、筆者はどのように述べていますか。最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「泣けるもの」を観たり読んだりした有名人が、「私も泣いた!」「泣くのはいいこと、すばらしいこと」とさかんに言っているから。

イ 「泣けるもの」を観たり読んだりして、思い切り涙を流すことで、今現在自分が抱えている身の回りの問題が一気に解決するから。

ウ 「泣けるもの」を観たり読んだりすることで、悩みや心配事が消えてゆくように感じられ、そのことである種の心地よさを得ることができるから。

エ 「泣けるもの」を観たり読んだりすれば、雑念が消えてすっきりするため、自然と周りの人間からいい人だと思われることになるから。

問三 傍線部2「」で問題なのは、この『涙』が出てくると、ほかのあらゆる意見や議論が無効になってしまうことだ」について、次の問いに答えなさい。

① 例として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア とある日曜日、友達と一緒に映画を見に行った。自分としてはまったく共感できず、面白くないと感じたが、映画が終わって周囲を見回すと、みんな涙を流していた。友達も涙をにじませながらも感動したと言っており、「面白くなかった」と言っているわけではない。雰囲気を感じ取ったため、周りに合わせて「とても面白かった」と言ってしまった。しかし家に帰ってよく考えると、なぜあんなことを言ったのか、自分でも不思議に思った。

イ ある中学校の野球部は、全国大会への出場をかけた決勝戦に駒を進めることができた。ところが決勝戦の数日前、エースピッチャーが大切な肩に深刻なけがを負ってしまった。その選手は涙ながらに、どうしても決勝戦のマウンドで投げさせてほしいと監督に頼みこんだが、監督はその選手の将来を考え、悩んだ末に出場させないという決断をした。その結果、試合には負けてしまったが、選手たちは監督の決断を称賛した。

ウ ある県では、毎年水不足に悩まされていたため、ダムを建設して対応することになり、ダムの建設予定地にあった村落は水没してしまうことになった。我が家を追われることになる人たちが、ニュース番組内で、涙をおさえきれず悲しみを訴えた。水不足が解消されることを期待していた県民の意見よりも、その姿を見た視聴者からの「かわいそうだ」という意見が圧倒的に多かったため、ダム建設の計画は凍結された。

エ ある小学校では、生徒が毎日、裏山の掃除をすることになっていた。夏は暑く、冬は凍えるほど寒い中での作業は、生徒たちの大きな負担となっていた。ある冬の日、一人の女子生徒が作業のあまりの辛さに耐えきれず、思わず泣き出してしまった。その光景を見たクラスメイトが教師に報告したところ、学校側は、以前からの保護者からの要望もあったため、今後の裏山の掃除の中止を決定した。

② 『涙』が出てくると、ほかのあらゆる意見や議論が無効になってしまうのはどうしてですか。これについて説明した次の文の X・Y に当てはまる語句を、指定の字数で文中から抜き出して答えなさい。

様々な場において一番大切にすべきことは X (五字) であるという Y (三字) を、多くの人が受け入れつつあるから。

③ ②で答えたことに関して、筆者はどのように考えていますか。最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 大切なものを失ってしまった人達には同情すべきであり、そういった涙について何も感じないような人は、人間らしい感情がないといえる。

イ その場で話し合われてきたことや、それぞれの考え方が、誰かが涙を流すと意味をなさなくなってしまうことは、感心できないことだ。

ウ 他人の流す涙を見て普段の冷静さを失ってしまい、一見正反対に思える意見を同時に主張するようなことは、我々全員に起こりうることだ。

エ ある人が涙を流すと、常に特定の誰かが激しく責め立てられ、自分の意見を封じ込められてしまうことがあるが、それは悲しむべきことである。

問 四 傍線部3「常にまわりの人の顔色をうかがいながら、実は『今なら安心して泣ける』というときにだけ涙し、『この人には同情して大丈夫だ』という対象にだけ『かわいそう』と言っている」とありますが、これはどういふことですか。最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分のすべてをさらけ出せるような、信頼しんらいを置いている人の前では共感の涙を流すが、そうではない時にはまったく涙を流そうとしないということ。

イ 自分の置かれている立場や状況によって、自分の見ばえを良くしようと計算し、公の場や人前では絶対に涙を流さないようにしているということ。

ウ 世論がどのように判断するか、自分の立場が不利にならないかを基準にして、その場で涙を流すべきかどうかを決めているということ。

エ 悲しい場面では悲しみの涙、うれしい時には喜びの涙、というように、いつ、どの種類の涙を流すべきかをどんな時でも考えているということ。

-7-

問 五 本文における筆者の考えと合っているものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 本を読んだり映画を観たりした時に、涙さえ流せばいいというような人たちは、せつかくの感動的な手記やドキュメンタリーの素晴らしさを本当の意味で味わっているとはいえず、非常に残念だと思ふ。

イ 「泣く」ということは、自分が素直に涙を流すことのできる純粋じゆんすいな人間である、ということを確認し、そうした自分を好きになるためのひとりよがりな行為こうゐであるため、あまり好ましいとは思わない。

ウ 本人の人間の成長をとまわらない涙の価値は、世間の人々が思っているほど低いものではないので、若い人たちが感動の涙を流すことは、悪いことではなく、むしろすばらしいことである。

エ 涙に対して理解し思いやる気持ちだが、他者に影響えいきやうを与えること自体を批判する気はないが、個人のレベルを超えた問題に関して、涙が大きな力をもつことについては、危機感を抱いだかざるを得ない。

二 次の文章は、佐川光晴「四本のラケット」の一部です。これを読んで、後の問いに答えなさい。

中学一年生の「ぼく」(太二)は、テニス部に所属している。ある日「ぼく」は、一年生が担当する昼休みのテニスコー
トの整備を、他の部員たちとめしあわせて末永一人に押しつけてしまった。「ぼく」は、そのことを後悔し悩むが、自分
ではどうすることもできないまま、翌朝の練習に参加することとなった。以下はそれに続く文章である。

八時二十分を過ぎていたので、ネットの向こうは登校する生徒たちでいっぱいだった。武藤に、間違っても今日はやるな
よと一声かけておきたかったが、息が切れて、とても口をきくどころではなかった。

ラケットを持って一年三組の教室へと階段をのぼりながら、「ぼくは武藤と話さなくてよかったと思った。ぼくが武藤を呼
びとめていたら、ほかの一年生はぼくたちがなにを話しているのかと、気になってしかたがなかったはずだ。武藤ではなく、
久保か末永を呼びとめていても同じ不安が広がったにちがいない。冷静に考えれば、きのうのことは一度きりの悪たくみと
して終わらせるしかないわけだが、疑いだせばきりがないのも事実だった。

もしかすると、みんなは今日も末永をハメようとしていて、自分だけが知らされていないのかもしれない。もしか
すると、きのうの仕返しに、末永がなにかしかけようとしているのかもしれない。もしかすると、二、三人の仲の良い者ど
うしで申し合せて、たとえ負けてもひとりにはならないように安全策をこうじているのかもしれない。

きのうの夜には考えつかなかった可能性が、つぎつぎ頭に浮かび、これは思っている以上に厄介だと、ぼくは頭を悩ませた。
やはり中田さんに打ち明けるしかない。そう思ったが、それを思いとどまったのは、きのうから今日にかけて、一番きつ
い思いをしているのは末永だと気づいたからだ。末永以外の一年生部員二十三人は、自分が加担した悪たくみのツケとして
不安におちいつているにすぎない。それに対して末永は、今日もまたハメられるかもしれないという恐れをかかえながら朝

練に出てきたにちがいない。最終的に中田さんに頼むとしても、まずはみんなで末永にあやまり、そのうえで相談するのが
筋だろう。

そう結論したのは、三時間目の終わりだった。おかげで社会の授業はまるで耳に入らなかったが、ようやく自分のするべ
きことに納得がいき、トイレに行こうと廊下に出ると武藤がこっちに歩いてくる。ただし、顔をうつむかせて、ぼくには気
づいていなかった。

「よお」
「よお」

武藤はおどろき、気弱げな笑顔を浮かべた。そんな武藤を見たことがなかったので、休み時間に顧問の浅井先生から注意
を受けたのではないかとぼくは思った。

浅井先生は、末永がいる一年一組のクラス担任だった。末永が、たぶん武藤が中心になって自分をハメたと思うと訴え
て、先生は武藤に事実確認を求めたのだ。それなら、昼休みにテニスコートに集まったところで、浅井先生から話があるだ
ろう。たつぷり怒られるにちがいないが、それでケリがつくならかまわなかった。

四時間目の授業が終わり、ぼくはテニスコートに向かった。しかし、集まったのは一年生だけで、浅井先生の姿はなかつ
た。ぼくは落胆すると同時に自分の甘さに腹が立った。

いつものように二十四人で輪をつくったが、誰の顔も緊張で青ざめていた。末永にいたっては、歯をくいしばりすぎて、
こめかみとあごがびくびく動いている。ヘアバンドが斜めになっているのも気づかないほどで、ぼくは今更ながら、末
永に悪いことをしたと反省した。

しかし、こんな状況で口を開き、きのうはハメて悪かったと末永にあやまったら、どんな展開になるかわからない。武藤
をはじめとするみんなからは、よけいなことを言いやがってと恨まれて、末永だって怒りのやり場に困るだろう。

だから、一番いいのは、このまま普通にグーパーじゃんけんをすることだった。うまく分かれてくれればいいが、偶然、グーパーがひとりになる可能性だってある。ハメるつもりがないのに、末永がまたひとりになってしまったら、事態はこじれて收拾がつかなくなる。

⁴ みんなは青ざめた顔のまま、じゃんけんに移ろうとしていた。どうか、グーとパーが均等に分かれてほしい。

こぶしを顔の横に持ってきたとき、ぼくの頭に父の姿が浮かんだ。一緒にテニススクールに通っていたころ、父は試合で会心のショットを決めると、応援しているぼくたちに向かってポーズをとった。ぼくや母も、同じポーズで父にこたえた。

「グーパー、じゃん」

掛け声に合わせて手を振りおろしたぼくはチョキを出していた。本当はVサインのつもりだったが、この状況ではどうしたってチョキにしか見えない。ぼく以外はパーが十五人でグーが八人。末永はパーで、武藤と久保はグーを出していた。

ぼくが顔をあげると、向かいにいた久保と目が合った。

「太二、わかったよ。おれもチョキにするわ」

⁵ 久保はそう言つてグーからチョキにかえると、尖らせた口から息を吐いた。

「なあ、武藤。グーパーはもうやめよう」

久保に言われて、武藤はくちびるを隠すように口を結び、何度も小さく頷いた。そして、武藤は握っていたこぶしから人差し指と中指を伸ばすと、ぼくに向かつてその手を突き出した。

武藤からのVサインを受けて、ぼくは末永にVサインを送った。末永は自分の手のひらを見つめながらパーをチョキに変えて、輪の中に差し出した。

「明日からのコート整備をどうするかは、放課後の練習のあとで決めよう。時間もないし、今日はチョキがブラシをかけるよ」

そう言つて、ぼくが道具小屋に向かつてかけだすと、何人かの足音がつづいた。ブラシを取ったところで振り返ると、久保と武藤と末永のあとにも四人がかけてきて、ぼくは八本あるブラシを一本ずつ手わたした。

⁶ コート整備をするあいだ、誰も口をきかなかつた。ぼくの横には久保がいて、ブラシとブラシが離れないように歩幅を合わせて歩いていると、きのうからのわだかまりが消えていく気がした。

隣のコートでは武藤と末永が並び、百八十センチ近い長身の二人は大腿でブラシを引いていく。コートの端までくると、内側の武藤が歩幅を狭くしてきれいな弧を描き、直線にもどれば一人ともがまた大腿になつてブラシを引いていく。

きつと、ぼくたちはこれまでよりもずっと強くなるだろう。個人戦はもちろん、ダブルスでも、そしてチーム全体としても、とても強くなれるはずだ。

【佐川光晴「四本のラケット」(ナツイチ製作委員会編『あの日、君とBoys』(集英社)所収)】

〔注〕 *中田さん…テニス部のキャプテン。中学二年生。

*顧問…部活動の指導・管理をする教員。

*グーパーじゃんけん…グーとパーだけを用いるじゃんけん。テニス部ではグーパーじゃんけんて人数の少ない側の者がコート整備を行っていた。

問一 傍線部1「ほくは武藤と話さなくてよかった」とありますが、どうして「ほく」はそう思ったのですか。その理由

として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 武藤と話して、お互いの気持ちが同じだったとしても、二人だけで問題を解決するのは困難だったから。
- イ 武藤と話して、二人の意見がぶつかり合ってしまったら、より事態がこじれてしまう可能性があったから。
- ウ 武藤と話したことによって、自分の考えた解決策が否定され、裏切り者扱いされてしまうかもしれないから。
- エ 武藤と話したことによって、今度は自分が何か企んでいるのではないかと他の部員からあやしまれるから。

問二 傍線部2「自分のすべきことに納得がいき」について、次の問いに答えなさい。

① 「自分のすべきこと」とは具体的にどのようなことですか。十字以内で答えなさい。

② どうして「ほく」は「自分のすべきことに納得」したのですか。その理由として最も適当なものを、次のア～エの

中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自分たちのことを心配する前に、自分たちのせいで精神的に追い込まれ苦しんでいるであろう末永のことを気づかうべきであったと思い至ったから。
- イ 自分たちだけで問題を解決しようにも、あらゆる行動に疑いの目が向けられてしまったため、もう自分たちには何も打つ手はなくなってしまったと感じたから。
- ウ 自分たちにとっては、末永のこと以上にテニス部のことが大切で、部員同士の不信感をいち早く解消し、部員全員の心を再び結束させたかったから。
- エ 自分たちが想像もできないような新たな問題が発生する可能性も十分にあるので、末永にも武藤にもいったん冷静になってもらう必要があると考えたから。

問三 傍線部3「ほくは落胆するのと同時に自分の甘さに腹が立った」とありますが、「自分の甘さ」とは具体的にどのようなことですか。本文の内容にそって説明しなさい。

問四 傍線部4「みんなは青ざめた顔のまま、じゃんけんに移ろうとしていた」について、次の問いに答えなさい。

① この場面での末永の気持ちが、その様子や表情に最もよく表れている部分を文中から一文で抜き出し、初めの五字を答えなさい。

② このときの末永以外の部員たちの様子を説明したものととして、最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 末永の問題が顧問の先生に報告されてしまったことで顧問と部員たちとの信頼関係が壊れ、テニス部の活動が今後できなくなるのではないかとろうたえている。
- イ 末永の問題よりも自分の立場を守ろうとするあまり、問題の解決をわざと先送りし、その場しのぎで取りつくるつた言い訳をしてしまったことを深く悔んでいる。
- ウ 末永の問題を何とかしなければならぬと思いつつもどうすることもできず、精神的に追いつめられた状況に気が持たが押しつぶされそうになっている。
- エ 末永の問題について、まずは自分たちから行動すべきだと気付いたにもかかわらず、キャプテンにすら相談できなかったみずからの心の弱さにいきどおっている。

問五 傍線部5「久保はそう言ってグーからチョキにかえる」とく何度も小さく頷いた」とありますが、このときの久保と武藤についての説明として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 久保はグーパーじゃんけんのルールを無視した太二の気持ちを代弁しようと、心を落ち着けたうえで、中心となった武藤に反発し、武藤はそんな久保たちの行動によって自分自身のふがいなさを強く感じ、うなだれている。

イ 久保は太二が問題を解決するきっかけを作ってくれたことで緊張が解け、武藤にグーパーじゃんけんをやめるよう提案し、武藤は自分たちのしてしまったことを重く受け止め、その提案を受け入れようとしている。

ウ 久保は太二の行動が場をなごませてくれたことを受けて、部員たちの不安のもとになるグーパーじゃんけんの中止を提案するが、武藤はこれまでやってきたことをそう簡単に中止すべきでないとその提案を拒絶しようとしている。

エ 久保はグーパーじゃんけんを無理やり中断させようとした太二の勇気ある行動に触発され、武藤に対して反抗しようとするが、武藤は久保たちがどんな思いをもって行動しているのかをすぐには理解できずにとまどっている。

問六 傍線部6「コート整備をするあいだ、誰も口をきかなかった」とありますが、この場面での「ほく」の気持ちとして最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア まだ部員同士の間で反発しあう気持ちがあることを感じながらも、自分の行動によって、ひとまず事態が収まったことに胸をなでおろしている。

イ お互いを信用できなくなってしまった部員たちの心を、自分の力で一つにまとめることができたことに満足し、少なからず得意になっている。

ウ 部員の間で広がってしまった不信感を自分たちの力で断ち切れたことで自信を深め、これからのテニス部に期待感を抱いている。

エ 自分たちのしてしまったことを深く後悔し、反省しながらも、これからもまた同じようなことが起きるのではないかと不安を募らせている。

三

次の各問いに答えなさい。

問一 次の①～⑤の文の意味を表すことわざを、それぞれ後のア～クの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ① 本当かどうかもわからないのに、一緒になつてさわぎ立てるなんて困ったものだ。
- ② 最近の彼の活躍はすごい。並ぶものがないほじだ。
- ③ どんなに言葉をつくして彼女を説得しようとしても無駄だよ。
- ④ あんなにはりきって練習していた彼が、レギュラーになれなくて落ち込んでしまった。
- ⑤ 彼が理科の先生だって知らなくて、宇宙について話をしてしまった。

- | | | | | | |
|---|---------|---|-----------|---|-------|
| ア | のれんに腕押し | イ | 煮え湯を飲まされる | ウ | 尻馬に乗る |
| エ | 青菜に塩 | オ | 釈迦に説法 | カ | 焼け石に水 |
| キ | 元の木阿弥 | ク | 飛ぶ鳥を落とす | | |

問二 次のア～エの傍線部の「ながら」のうち、他と働きの異なるものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 時間割のことを考えながら明日の準備をした。
- イ 彼は生まれながらの才能でプロ野球選手になった。
- ウ 彼女が歌いながら踊る姿は感動的だ。
- エ 携帯電話を操作しながらの自転車走行は危険だ。

問三 次の文で——部が直接かかっている部分を、ア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

幼アくて、まだイ、お使いにウ、行けないエ、妹はオ留守番だ。

問四 次の熟語と組み立てが同じ熟語を、後のア～エから選び、記号で答えなさい。

「洗顔」 ア 側面 イ 明暗 ウ 航海 エ 創造

問五 次の俳句は、どの季節の風物を詠んだものですか。季節を漢字で答えなさい。

山陰やまかげや 薄すすきは薄 月は月 正岡子規

問六 川端康成の作品を、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 野菊のぎくの墓はか イ 銀河鉄道の夜 ウ 銀ぎんの匙さじ エ 伊豆いずの踊おどり子

四

次の傍線部のカタカナを漢字に改めなさい。

- 1 ハハタを振りながら、選手団が入場した。
- 2 毎日の部活動で、ヒヒロウがたまってきた。
- 3 昔はありふれていたものでも、今ではキキシヨウ価値があるのです。
- 4 生徒会選挙の立候補をシシタイする。
- 5 経済成長をシシユガンとする政策をとる。

五

次の傍線部の漢字の読みをひらがなで記しなさい。

- 1 限りある資シ源を大切に使用していかねければならない。
- 2 有益な情報シは手に入らなかつた。
- 3 農家の庭先で脱穀シ作業をする。
- 4 オリンピックで、選手達シが技を競い合う。
- 5 このカメラシの操作は、とても易しい。

問題はこのページでおしまいです。

